

2024
12.15

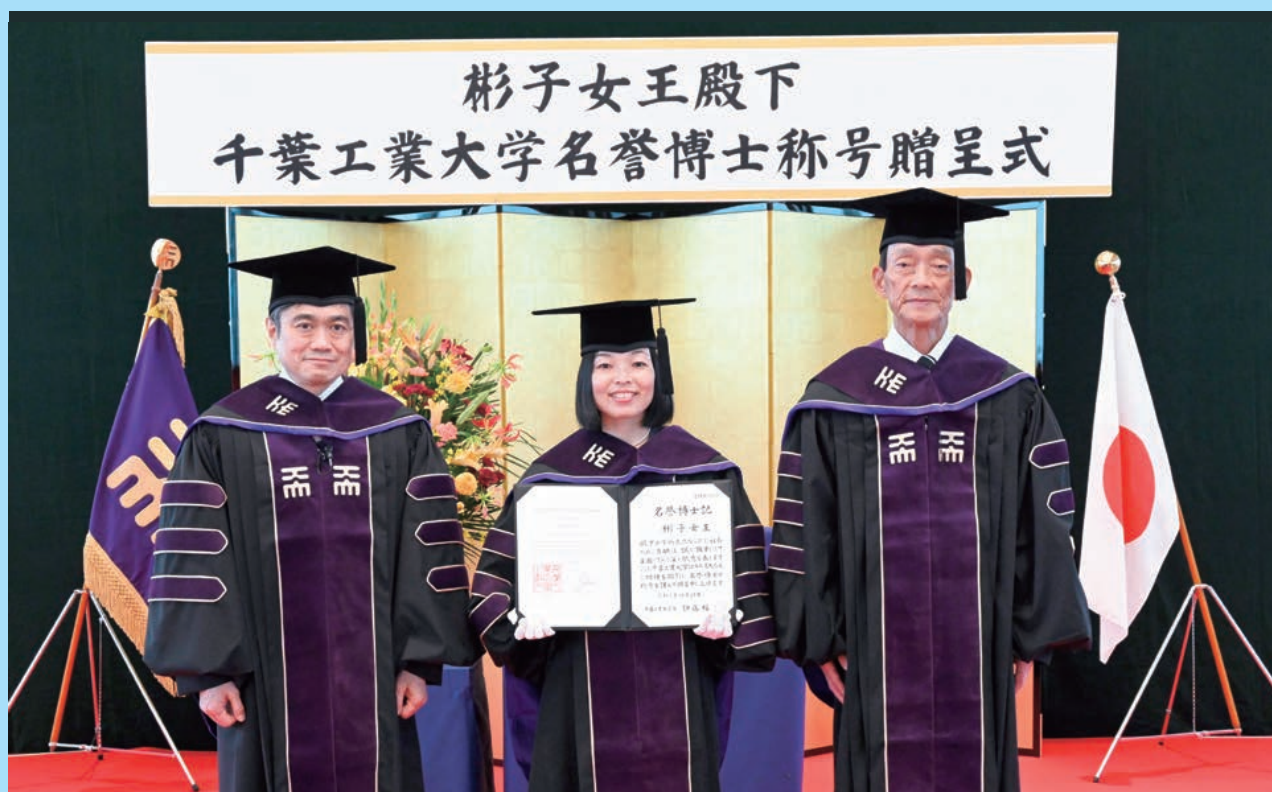
NEWS

CIT

千葉工業大学 入試広報部
CHIBA INSTITUTE OF TECHNOLOGY〒275-0016
千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号
TEL 047(478)0222
FAX 047(478)3344

校章は、創立直後の昭和17年、公募によって制定され、平成4年、創立50周年に伴い、商標登録されました。新しいNEWS CITはスクールカラーの「紫紺」をベースに、さわやかなスカイブルーカラーでお届けします。

[NO.690]



左から伊藤学長、彬子女王殿下、瀬戸熊理事長

彬子女王殿下に本学初となる名誉博士称号を贈呈

本学は、三笠宮家の彬子女王殿下に対し、千葉工業大学名誉博士(※次頁)の称号を贈呈しました。

彬子女王殿下は、英国・オックスフォード大学マートン・コレッジで日本美術を専攻され、2010年に女性皇族で初となる博士号・哲学博士(オックスフォード大学)を取得。その後、日本の伝統文化に触れる機会を若い世代に提供することを目的とした一般社団法人「心游舎」を自ら設立されるとともに、中近東文化センター総裁、日本・トルコ協会総裁、日本プロスキー教師協会総裁、三笠宮記念財団総裁など数々の要職に就かれ、スポーツの振興や文化・芸術の分野で広く活躍されています。

本学におかれましては、女王殿下が総裁を務めておられる中近東文化センターの附属アナトリア考古学研究所と、本学地球学研究センターがアナトリア地域を中心とした共同研究を開始したことをきっかけに、2020年4月、同センター主席研究員並びに特別教授にご就任され、これまで、本学の学生に幅広い知識と教養をご教授いただいております。

今後の本学における教育・研究活動に対し、女王殿下のご寄与は多大であり、名誉博士の称号を贈呈することとなりました。なお、本学における名誉博士の称号贈呈は、彬子女王殿下が初めてとなります。

P2 彬子女王殿下に本学初となる名誉博士称号を贈呈 / MIT・ランガー教授に本学の名誉博士称号を授与

P3 横尾さん、2年連続の快挙、優秀講演表彰を受賞 / 川島さんが学生ポスターセッションで奨励賞を受賞 / 中村さん、電子情報通信学会で優秀ポスター発表賞を受賞 / 伊坂さん、CSIS DAYS 2024 優秀共同研究発表賞を受賞 / 第9回千葉大学セキュリティバグハンティングコンテストで優秀賞を受賞

P4 工学部・電気電子工学科熊谷明哉教授が特奨励賞を受賞 / 今年度の推薦系選抜が無事に終了 / 令和6年度前期のグッド・レクチャー賞が決定 / 科学の楽しさを感じてもらう「世界一歩きたい科学広場」を開催

P5 第75回津田沼祭、3日間で15000人が来場、多彩な企画と笑顔あふれる祭典に

P6 就職・進路支援だより / コラム

名誉博士称号贈呈式は10月29日、津田沼キャンパス1号館20階で挙行政され、瀬戸熊修理事長、伊藤穰一学長をはじめ本学役員・役職者など14人が列席し、厳かに執り行われました。開式の時刻に合わせ、千葉工業大学の制服を着用された彬子女王殿下が瀬戸熊理事長の先導で入場されると、列席者全員が拍手で出迎えました。

贈呈式では、伊藤学長が名誉博士記を贈呈し、彬子女王殿下のご研究と功績をたたえました。続いて、名誉博士のフードを贈呈、瀬戸熊理事長から記念品の贈呈が行われました。

次いで、彬子女王殿下が「私は研究が好きだという思いのみでここまで歩いてまいりました。社会に還元できる研究でもありませんし、評価していただけるような功績もありません。自分の研究はなんと小さなことかと打ちのめされそうになったことも何度もございます。この度名誉博士号を授与頂き、その歩みが決して間違っ

てはなかったのだと認めていただけたようで、本当にありがたく、励まされる思いがいたします。(一部抜粋)」とおことば(webサイトにて全文別掲)を述べられました。

閉式後は、会場を2号館3階大教室に移し、彬子女王殿下名誉博士称号贈呈を記念して講演会を開催しました。同講演会は、本学の教養特別科目である「新文化論」の一コマでもあり、当日は受講生に加え、聴講希望の学生、役員、教職員ら約330名が会場に集まりました。

『大英博物館の「日本」コレクション』という題目で、約1時間講演いただき、大英博物館の日本美術に関する展示品や、その展示に至るまでの歴史について説明されました。特に、彬子女王殿下の留学生時代の体験については、ユーモアを交えたお話に来場者から笑顔がこぼれるなど、会場は終始和やかな雰囲気になっていました。

伊藤穰一学長よりコメント

文化交流の推進に尽力され、世界の文化に多大なる影響を与えられている彬子女王殿下には、本学における建学の精神である「世界文化に技術で貢献する」の実現に、これまでと同様に今後もお力添えをしていただけるものと確信しております。この度の栄誉により、女王殿下と本学との関係が一層強化されることを、誠に名誉かつ嬉しく思います。

名誉博士について

千葉工業大学は令和6年2月に名誉博士の称号を授与する制度を制定しました。これは、学術文化や社会への功績が特に顕著であると認められ、今後、本学の教育研究への寄与が期待される方、また、今まで本学の教育研究に寄与した功績が顕著であると認められる方に贈られるものです。

おことば全文はこちら

<https://www.it-chiba.ac.jp/topics/20241029-122715/>

彬子女王殿下の名誉博士の称号贈呈については、11月上旬に報道発表を想定していましたが、三笠宮妃殿下の薨去(11月15日)により発表を延期。12月15日に女王殿下の喪が明けた後、関係機関と改めて検討・調整した結果、12月末の発表となりました。



贈呈式でお言葉を述べられる彬子女王殿下

MIT・ランガー教授に本学の名誉博士称号を授与

彬子女王殿下に続き、米マサチューセッツ工科大学(MIT)教授として最高の栄誉であるインスティテュート・プロフェッサーを授与され、薬物送達システムや組織工学、ナノテクノロジーの分野で大きな業績を挙げているロバート・サミュエル・ランガー氏に対し、本学から名誉博士称号が授与されました。

米国のバイオテクノロジー企業「モデルナ」を含む多くの企業の共同設立者としても知られるランガー氏は、1999年から2002年まで米食品医薬品局(FDA)諮問委員会で議長を務め、米国の国家科学賞や国家技術革新賞などを受賞。革新的な研究と企業家精神が新しい治療法と技術の開発につながり、医療の進歩に貢献してきたことが高く評価され、今後

本学の教育と研究に大きな寄与が期待されるとし、今回の名誉博士称号授与となりました。11月11日に開催された産学懇談会冒頭に執り行われた授与式で、伊藤学長と瀬戸熊理事長から名誉博士記や記念品を贈呈されたランガー氏は「大変光栄です。本当にありがとうございます」と喜びの言葉を述べました。

また、伊藤学長は、「ランガー氏は医療の中に工学を持ち込んだ初めての人。エンジニアリングと社会の関係性、スタートアップのエコシステムをどうやってつくるか、米国のMITのトップの先生はどんな感じなのかを聞いたら良いと思う。本学の名誉博士となり、OBとしてサポートしていただければと思っている」と期待を寄せています。



ランガー氏に本学名誉博士の称号授与

横尾さん、 2年連続の快挙 優秀講演表彰を受賞



生命科学専攻修士2年の横尾菜摘さん(五明美智男研究室)が、11月15日付で日本沿岸域学会研究討論会・優秀講演表彰を受賞しました。本賞は、同学会が35歳以下の優れた発表者に授与するもので、横尾さんは昨年度に続く2年連続の受賞となります。

発表題目は「都市域に配置された緑地における昆虫出現特性」。キャンパス内や谷津干潟・藤崎森林公園において、2年間にわたる昆虫調査を継続し、都市緑地における昆虫の多様性について時空間的な比較を行いました。3年間の調査で発見した昆虫は315種、個体数は3863に上り、豊富なデータを整理・分析する過程で、昆虫に詳しくない人にも分かりやすく伝えられるよう工夫した点が評価されました。

横尾さんは、「興味から始めた研究を、1本の昆虫網と1台のカメラを手に3年間で、これまでの努力が認められて嬉しいです」と話しています。

川島さんが 学生ポスターセッションで 奨励賞を受賞



先端材料工学専攻修士1年の川島匠生さん(小澤俊平研究室)が、9月19日、大阪大学豊中キャンパスで開催された第188回日本鉄鋼協会秋季講演大会学生ポスターセッションにおいて、「奨励賞」を受賞しました。

研究テーマは「ガスジェット浮遊法を用いた溶融酸化鉄の水素還元速度の測定」で、製鉄プロセスでは大量のCO₂が排出されますが、その削減には酸化鉄の還元を従来の炭材から水素へと置き換えることが重要です。しかし、溶融酸化鉄の水素還元速度の測定は高温環境下で行う必要があり、従来の手法では困難でした。本発表では、酸化鉄をガスジェットによって空中に浮遊させた状態で溶融させることで、高温での水素還元速度の測定を可能にする新しい手法を提案しました。

川島さんは「光栄な賞をいただき、とても嬉しいです。小澤先生、栗林先生、清宮さん(附属研究所)、そして諸先輩方に心から感謝します。この経験を生かして、さらに研究を深めていきたい」と話しています。

中村さん、 電子情報通信学会で 優秀ポスター発表賞を受賞

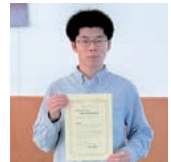


情報通信システム工学専攻修士2年の中村浩紀さん(長敬三研究室)が、10月17日にアクロス福岡で開催された電子情報通信学会アンテナ・伝搬研究専門委員会より優秀ポスター発表賞を受賞しました。

テーマは「縮退分離マイクロストリップ素子を取り付けた液晶を用いたビームステアリングアンテナユニット」。本研究では、移動体における衛星通信需要の高まりを受け、地上車両向けの平面アレーアンテナの高性能化を目指し、液晶の誘電率変化を活用した位相制御によるビームステアリング技術を提案。特に、アンテナ素子の構造を工夫することで、直交偏波のビーム制御に加え、円偏波の実現にも成功し、衛星通信に適した特性を備えた点が評価されました。

中村さんは、「地道な努力が実を結びとても嬉しいです。支えてくださった教授、研究室の仲間、友人に感謝します」と話しています。

伊坂さん、 CSIS DAYS 2024 優秀共同研究発表賞を受賞



11月16日、東京大学柏地区キャンパスにて開催されたCSIS DAYS 2024において、都市環境工学科4年の伊坂優太さん(薄井宏行研究室)が優秀共同研究発表賞を受賞しました。CSIS DAYSは、東京大学空間情報科学研究センターが主催する学術発表会で、地理空間情報を活用した先端的研究が一堂に会する場です。

伊坂さんは、「校歌で歌われる地物とその地理的範囲の可視化」と題し発表。多くの学校にある「校歌」の歌詞中に含まれる山や川といった地域を特徴づける地物に注目し、埼玉県下の公立高校を対象に校歌の歌詞と歌詞に含まれる地物について収集し、地理空間情報の解析ソフト上でその分布や特徴について解析。

伊坂さんは、「テキストデータ化されていない校歌が多く作業に苦労したが、評価していただけて嬉しい」と、初めての研究発表会での受賞に驚きと感謝の気持ちを述べました。

第9回千葉大学セキュリティバグハンティングコンテストで優秀賞を受賞

情報ネットワーク学科3年の深見一輝さん、手塚悠貴さん、長谷川侑哉さん、池添志織さんの4名(中村直人研究室)が、11月25日に開催された第9回千葉大学セキュリティバグハンティングコンテストにおいて優秀賞を受賞しました。本コンテストは、千葉大学情報危機対策チーム(C-csirt)が主催し、システムの脆弱性を検出し、その分析と報告能力を競うもの。

今回の受賞は、複数のウェブサイトに対して高度な脆弱性検証を実施し、具体的なかつ再現性の高いレポートを作成したことによるもので、対象となったサイトごとに適切な攻撃パターンを検査し、潜在的リスクを明確に示した点や、レポートの一貫性・分析の詳細さが高く評価されました。

本コンテストでは、「千葉大学バグハンティング

コンテスト2024報告書」を作成。ステージ1ではデモサイトを対象に脆弱性を調査し、特性や再現性を分析。ステージ2では、千葉大学の本番環境サーバーを対象にリスク評価を行い、影響範囲や対応優先度を検討しました。

受賞について、チームメンバーは「このコンテストを通じて、私たちは技術力の向上だけでなく、問題解決能力や粘り強さといった、人生の中でも大切になるスキルを学ぶことができました。これらの経験は、今後の人生においても必ず役立つものだと確信しています。この素晴らしい機会を与えてくださった先生方、千葉大学の皆様、そして支え合いながら共に挑戦したチームメンバーに感謝したい」と喜びを語りました。

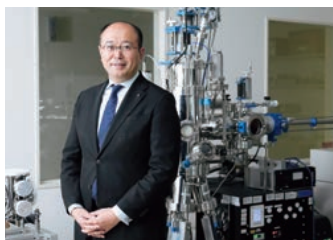


後列左から、手塚さん、深見さん
前列左から、池添さん、長谷川さん

工学部・電気電子工学科 熊谷明哉教授が 榊奨励賞を受賞

電気電子工学科の熊谷明哉教授が、マイクロビームアナリシス技術部会より「榊奨励賞」を受賞しました。表彰式および受賞講演は、11月17日から22日に島根県松江市で開催された国際会議「ALC'24」内で行われました。

受賞した研究は、「ナノ電気化学反応を可視化する電気化学顕微鏡の応用開発」。熊谷教授は、リチウムイオン電池をはじめとするエネルギー材料の表面におけるイオン伝導をナノスケールで可視化する技術を開発。特に、生物分野の



分析手法を応用した顕微鏡により、リチウムイオンが材料内部で脱離・挿入する様子を詳細に観察可能にしたことで、電池性能の向上に繋がる重要な知見を提供しました。

熊谷教授は「歴史ある名誉な受賞、大変光栄です。本技術をさらに発展させ、カーボンニュートラル社会の実現に寄与したい」と述べています。

今年度の 推薦系選抜が無事に終了

総合型(創造)選抜が10月12、13日に実施されたのを皮切りに、10月27日=情報科学部変革科学部(3学科)、未来変革科学部(2学科)を対象とした総合型(デジタルイノベーター発掘)選抜、11月17日=学校推薦型選抜(指定校制・帰国生徒指定校制)、同23日=特別選抜(外国人留学生・帰国生徒・社会人)、編入学選抜(指定校制・高等専門学校)、同24日=学校推薦型選抜(公募制・専門高校)が実施され、無事に終了しました。

今年度の推薦系志願者総数は1539人。編入学選抜の試験志願者数は36人となりました。

令和6年度前期のグッド・レクチャー賞が決定

令和6年度前期のグッド・レクチャー賞に教員20人が選ばれ、11月9日の受賞式で伊藤穰一学長から表彰された。

令和2年から、過去5回以上ベスト・ティーチャー賞を受賞した教員をDistinguished Teacher、過去5回以上グッド・レクチャー賞を受賞した講義をDistinguished Lectureと認定して表彰対象からは外すこととしている。

これまでにプロジェクトマネジメント学科の鴻巣努教授がDistinguished Teacherに認定され、未来ロボティクス学科の米田完教授、教育センターの市川洋子助教、佐藤和教授、引原有輝教授の講義がDistinguished Lectureに認定されている。

今年度前期受賞者は次の通り(順不同)。



【機械電子創成工学科】新井 浩志 教授 【電気電子工学科】藤本 靖 教授/山崎 克巳 教授/松田 忠典 准教授 【応用化学科】原口 亮介 准教授
【認知情報科学科】今井 順一 教授/山崎 治 准教授 【経営デザイン科学科】関 研一 教授 【デジタル変革科学科】角田 仁 教授/田隈 広紀 教授
【教育センター(工学部)】相川 文弘 教授/大貫 俊彦 准教授/重 歩美 助教/森林 駿介 非常勤講師 【教育センター(創造工学部)】東山 幸司 教授
【教育センター(情報変革科学部)】K.R.ジョンソン助教 【教育センター(未来変革科学部)】木島 愛 教授/須藤 勲 教授/高松 佑介 助教/中村 達 助教

科学の楽しさを感じてもらおう「世界一行きたい科学広場」を開催

11月23日、親子で気軽に参加できる地域密着型の科学イベント「世界一行きたい科学広場」が、浦安市東野の東海大学付属浦安高校・中等部体育館で開催されました。

本学からは教育センター(先進工学部)の南澤 慶(なみさわ けい)研究室が出展し、「日本の生物多様性の保全と千葉県(千葉県)の金盞花(キンセンカ)、海洋由来の薬用成分」をテーマに、子どもから大人まで楽しめるブースを展開しました。当日は南澤准教授をはじめ、研究室の学生10名が参加。来場者に向けて、日本の生態系の多様性や千葉県産の植物・海洋資源が持つ可能性について、わかりやすく解説しました。

また、柚子や金盞花の抽出物を用いたアロマキャンドル作りを実施。子どもたちは香りや色

の変化を楽しみながら、自然由来の成分を活用したものづくりを体験しました。自分だけのオリジナルアロマグッズが完成すると、「いい香り!」「作るの楽しい!」と親子で科学の面白さを実感する姿が印象的でした。

今回初参加の出展を終えた南澤准教授は、「幅広い年齢層の方にご参加いただき、作業に真剣に取り組む姿がとても印象的でした。温かい気持ちをいただき、大変感謝しています」と話しています。

本学は今後も地域の科学啓発イベントへの積極的な参加を通じて、科学の楽しさを広める活動を続けていきます。



順番待ちに並ぶ参加者



キャンドルづくりを体験する生徒たち



津田沼祭開催！期待に胸ふくらむ来場者の列



ダイナミックな作品で観客を魅了



息の合った演奏を披露する吹奏楽部



キャンパス内を盛り上げたよさこいソーラン風神部

第75回津田沼祭、3日間で15000人が来場 多彩な企画と笑顔あふれる祭典に

本学恒例の秋のお祭り「津田沼祭」(実行委員長:高橋理子さん(都市環境工学科3年))が11月23日～25日の3日間開催されました。

今年で75回目となる津田沼祭のテーマは「開花」。実行委員会や参加団体の努力が結実し、来場者に感動を届ける場になること、多様な展示や体験を通じて、来場者が新たな興味や可能性を見いだすきっかけとなること、この2つの思いから「津田沼祭に関わる全ての人の人生が、美しい花のように輝くこと」という願いが込められています。



芸術の秋！満載の写真展

初日は、強風のため、残念ながら屋外の模擬店やイベントは中止となり、一部、屋内で出店する等変更もありましたが、残りの2日間、サークルや研究室、自治会による、焼きそば、混ぜそば、やき鳥、チョコバナナなどの模擬店がずらりと軒をつらね、ハンドドリップでコーヒーを

提供する本格派から、もち米を使ったワッフル「もっふる」や、じゃんけんで勝つとギョーザの数が増えたり、10個のギョーザを一番早く食べると無料になったりなどのユニークな企画が盛りだくさんでした。



笑顔と美味しさを届ける模擬店ブース

4号館前の特設ステージでは、各団体によるライブやパフォーマンスを披露。24日は、シンガー・ソングライター井上苑子さんのライブや「四千頭身」「すゑひろがりず」のお笑いステージのパフォーマンスが披露されました。

また、よさこいソーラン風神部が23日・24日、広場で演目を披露し、引退する19代目(3年)の6人による演舞が始まると歓声が起こり、19代目が作詞・作曲した「^{かなた}奏向」でメンバー全員が舞い踊ると、観客は手拍子で参加したり、一緒に踊り出したりする人も。同部代表でこの日で引退した飯倉菜那さんは「ほかの代より人数が少ないことや、ほかの環境のデメリットをメリットに、マイナスをプラスに変えて前向きにできたのが

19代目。このメンバーでできて最高だった。これからはよさこいソーラン風神の応援よろしくお祈りします」とサークル活動を振り返りつつ後輩への応援を呼びかけました。

6号館を中心に行われた屋内イベントでは、今回で28回目になるロボットコンテストや、ゲーム「スーパーマリオメーカー2」や「大乱闘スマッシュブラザーズ」の対戦会など、イベントや展示、演奏、ワークショップなどが行われました。



大画面に映し出される名勝負

津田沼祭実行委員長の高橋さんは、「第75回津田沼祭は天候にも恵まれ、約15,000人のご来場をいただき盛況のうちに終了しました。来場者や参加団体の笑顔と「楽しかった!」の声は何よりの喜びです。実行委員会一同、試行錯誤と協力を重ね成功をつかみました。ご支援くださった皆様に心より感謝申し上げます。来年の第76回もさらに発展させるべく尽力いたしますので、引き続きご支援よろしくお祈りいたします」と述べました。

開会の挨拶をする
高橋実行委員長

就職・進路に役立つ情報をお届けします

就職・進路支援だより



年明けからの活動計画がカギに。積極的な行動でチャンスをつかもう！

【学部4年生・修士2年生向け支援】

引き続き個別支援を中心に行っています。多くの企業が採用を継続していますので、諦めず就職・進路支援部にご相談ください。1月以降、学内企業説明会や選考会を複数実施予定です。千葉工大生の採用意欲が高い企業が集まるため、例年参加学生の多くがこの時期に内定を獲得しています。未内定学生は必ず参加し、卒業までの内定を目指しましょう。詳細は決定次第メール配信や就職システムでお知らせします。今後、進路未決定の学生には、個別に電話連絡を入れることもあります。保護者の皆様と連携した支援が必要になることもありますので、その際はご協力をお願いいたします。

※4年生及び修士2年生で、既に就職や進学等の卒業後進路が確定している学生は、速やかに就職システムで進路報告の登録をお願いいたします。

【学部3年生・修士1年生向け支援(他学年の参加も可)】

3年生と修士1年生は、いよいよ就職活動の本番間近です。自己分析や業界・職種研究、各種対策(筆記試験・履歴書・面接など)の準備が、内定獲得へのポイントです。準備が多く何をしたら良いのかわからないなど不安があれば、個別相談も可能です。就職システムの個人面談予約や、窓口の当日面談予約を積極的に利用してください。

年明けからは、多くの企業が参加するイベントがスタートします。1月は、千葉工大卒業生、または入社年数の浅い若手中堅社員から直接仕事内容やアドバイスを聞ける「卒業生・若手中堅社員との交流会」を開催します。卒業生や若手社員ならではのアドバイスや裏話がきけるチャンスです。今月は、1月の参加企業の一部を紹介します。この機会に、千葉工大生の採用意欲が高い企業と接点を持ち、積極的に情報収集しましょう。懇談会は、全学年の参加が可能です。その他、大手志望学生向けセミナー、グループ面接対策、マナー講座等も実施しますので、行事カレンダーまたは就職システムで確認してください。引き続き、カウンセラーとの個別相談や、内定を獲得したばかりの先輩に相談できる「学生アドバイザー」の利用も可能ですので、就職システムから個人面談予約をご利用ください。学内の講座を活用して、万全な状態で臨みましょう。



PPA



本学に着任してから4年目を迎え、今年度よりPPA監事を拝命しました。着任してからPPAとの接点は、会費の給与天引きの他では、ご父兄との個別面談があります。小職が大学生の時に、父兄と教員との個別面談はなかったと思いますし、自分の子供が大学生だった時に、個別面談の案内をいただいても、参加したことはありませんでした。このため、教員になって初めて個別面談に臨むことになりましたが、ご参加されるご父兄の中には、遠方から新幹線で本学までお越し下さる方もいらっしゃるようで、本学に対するご父兄の期待を改めて実感しています。

個別面談でのご相談は各人各様ですが、2年次に就職活動のご相談をされたご父兄のご子息は、小職の研究室配属を希望され、就職活動にも配属前から取り組んで下さった結果、ご父兄も納得される企業に就職されました。配属後もご父兄は個別面談には毎年ご参加され、ご子息の近況をお伝えすることができましたので、このような良い循環を拡げていけるよう、PPAの活動を微力ながら役員としても取り組む所存です。

経営デザイン科学科 東 壯一郎

四季雑感



『今年もイルミネーション楽しみです!』またこの時期が来てしまった。

そう、自宅イルミネーションの時期です。田舎のいつもは街灯しかない暗い部落に、この時期だけキラキラしている、ある意味キラレツな民家が登場する。家の庭先を彩るイルミネーションを行ってからも何年になるだろうか。

最初は家の中だけに飾り、翌年は軒下と屋根回り、その翌年は庭へとやればやるほどこもこもとも拡張が止まらなく面積が増えていった。

イルミネーションを飾る準備は10月頃からはじまる。まずは、夏の間伸び切ってしまった植木の剪定、雑草の草刈り、これがなかなかの重労働で、それが終わると、小屋からイルミネーションライトや電源・サンタ・トナカイなどのモチーフを出し、飾り付けが始まる。今年は何んなパターンで飾り付けをしていくか考えながら約2週間かけて作業を進め、いざ点灯してみると点かないなどのトラブルを解消しながら、今年も無事点灯を開始した。

情報システム担当 高沼 憲昭

編集だより



煌めくイルミネーションを眺めながらも、心の片隅で『あれもやらなきゃ、これも済ませなきゃ』と師走の忙しさに追われる12月。気づけば2024年もあとわずか。今年は何んな1年だったでしょうか?

私にとっては、まさに「ついてる!」1年だったかもしれない。というのも、日本一チケットを取るのが難しいと言われる堂本光一の舞台『SHOCK』を3回も観劇し、しかも、大千秋楽もライブビューイングで鑑賞。まさに奇跡のような充実した1年でした。『SHOCK』の圧巻のパフォーマンスを目の当たりにし、毎回心を震わせながら「私、運を全部ここで使い果たしているのでは?」とすら思うほど。しかし、そんな心配をよそに、なんと年明けにはKinKi Kidsのコンサートにも行くことが決定!年をまたいで、なお、幸運が続く予感がワクワクしています。

「今年はツイてたなあ」と振り返りながら思うのは「好きなものに全力で向き合える時間こそが何よりの幸せ」ということ。仕事や日常の忙しさの中でも、大好きなものを楽しむ時間を持つことが、何よりの「幸運」だったのかも。

皆さんにとっても、素敵な年末、年始となりますように。

入試広報部 大橋 慶子